

夏夜涼を追う（楊万里）

夜熱依然午熱同 開門小立月明中
竹深樹密蟲鳴處 時有微涼不是風

夜熱 依然として 午熱に 同じ

解説 夏の夜、涼を求めて外に出て、虫の鳴く声に涼しさを感じたという詩。

門を 開いて 小立す 月明の 中

語釈 ※夜熱Ⅱ夜の熱。 ※午熱Ⅱ正午前後の炎熱。

※小立Ⅱしばらくの間、立ったままである。 ※竹深Ⅱ竹がうっそうと生えている。 ※樹密Ⅱ樹木がぎっしりと生い茂っている。

※微涼Ⅱかすかな涼しさ。

竹 深く 樹密にして 虫 鳴く 処

通釈 夜になっても気温が下がらず、まだ日中のような暑さだ。

時に 微涼 有るも 是れ 風 ならず

そこで、門を開けて、月明かりのもとで、しばらく立って涼んでいた。門前には竹がうっそうとはえ、樹がぎっしりと生い茂っている。そこで、虫のすだく声、そのとき涼しい風が吹いたようだが、これは風ではないのだ。